

研究課題名 多施設研究におけるリバーズ型人工肩関節置換術の術後成績の調査

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科整形外科学 教授 安達 伸生

研究期間 2021年8月26日(倫理委員会承認後)～2022年12月31日

対象者

2014年4月から2021年3月の間に、広島大学病院整形外科および各共同研究機関で腱板断裂症性肩関節症、広範囲肩腱板断裂、上腕骨近位粉碎骨折や肩関節陈旧性脱臼の病名でリバーズ型人工肩関節置換術による治療を受けられた患者さん。

除外) Follow up 期間が1年未満のもの

意義・目的

リバーズ型人工肩関節置換術には様々な機種がありますが、本術式に特徴的な合併症が報告されています。機種の特徴を考慮すると、それらの合併症の発生率も機種によって異なる可能性があり、それぞれの特徴を熟知することは、術後成績や合併症を予測する上で重要と考えます。ところが、単施設研究だと症例数は限りがあ、機種別での十分な検討ができないと考えられるため、多施設研究にて症例数を増やすことで、機種別の術後成績や合併症を調査することとしました。

方法

本研究は、各共同研究機関における診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は年齢、性別、手術側、手術時間、出血量、レントゲンやCTといった画像所見、術前後の可動域や筋力といった測定数値です。

(個人を特定可能な情報は解析に用いません)匿名化を図った後で各施設の責任者が共有フォルダにあるパスワード管理されたエクセルシートに入力し、dropbox というクラウドアプリによって管理します。

共同研究機関

マツダ病院(菊川 和彦)、広島市民病院(夏 恒治)、広島西医療センター(永田 義彦)、中国労災病院(中邑 祥博)

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科整形外科学 教授 安達 伸生

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

本研究で得られたデータは将来計画・実施される研究にとっても貴重な資料となる可能性があります。データを将来別の研究で使用する場合には、改めて倫理審査委員会承認を得た上で行います。

問合せ・苦情等の窓口

T e l : 082-257-5233

広島大学病院整形外科 職名 講師 横矢 晋

研究機関：広島大学